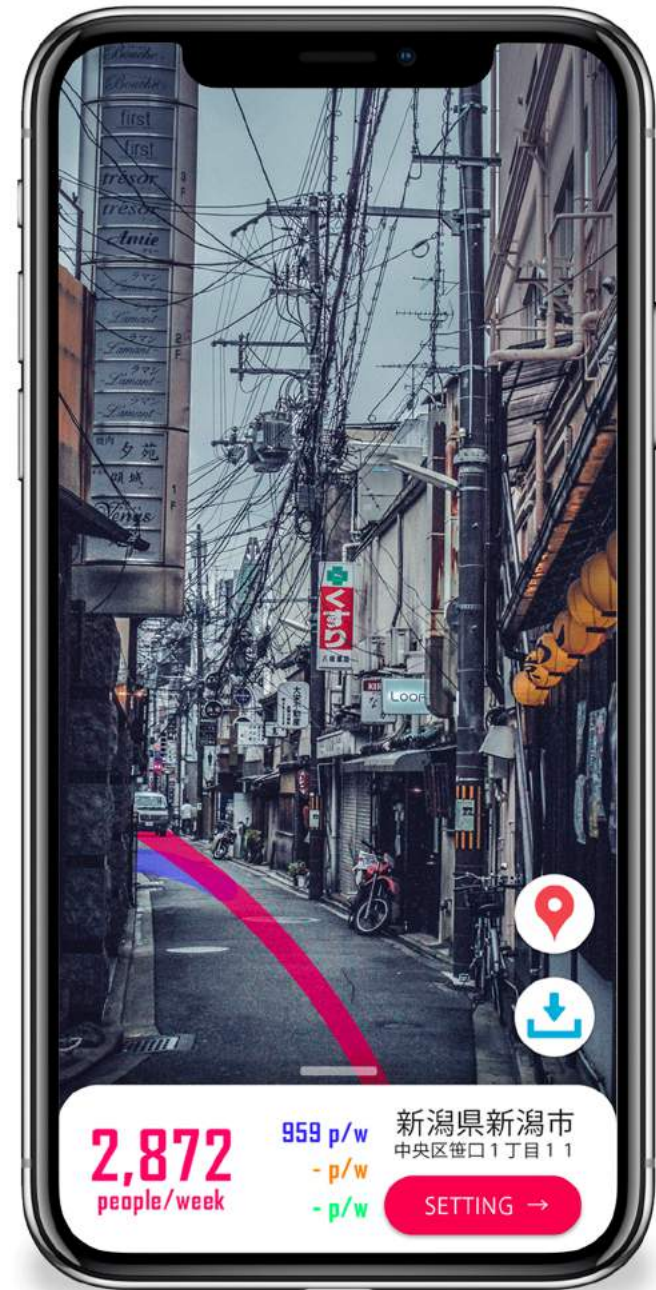


yottacar

ヨッタカル

新潟県田上町方言で「よったかる」は「集まる」を意味します。
今回考案したアプリケーション「yottacar」（ヨッタカル）は、
交通量調査のオープンデータを利用して人通りの多い道を
利用者に表示することで生活を豊かにします。



概要 — overview —

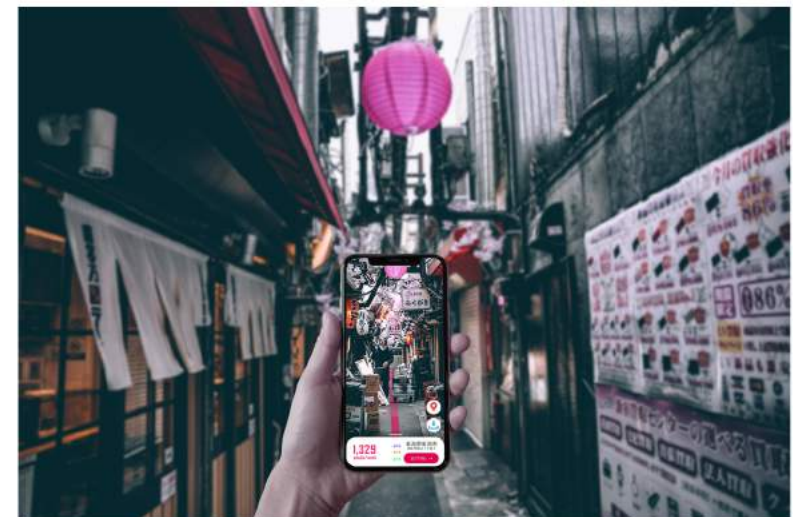
本アプリケーションは交通量調査のオープンデータを利用して、道ごとの交通量を利用者に可視化します。
利用者はスマートフォンの専用アプリケーションからAR機能を使用して、利用者の今いる道の交通量を数値と色で閲覧します。

アプリケーション画面

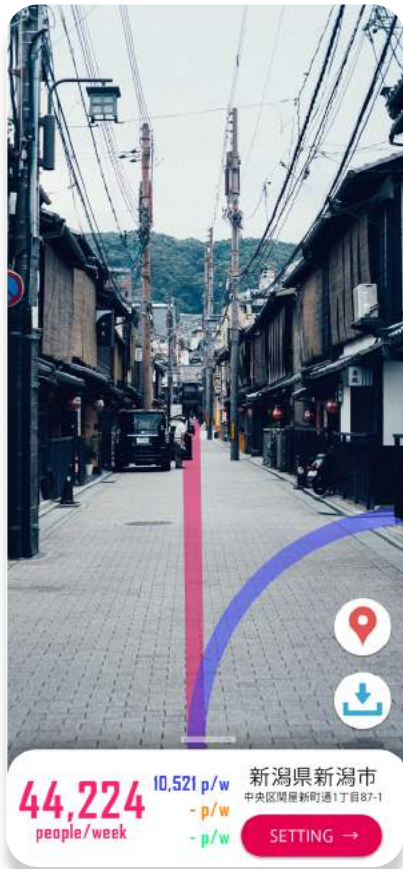


想定される利用ケース

1. 観光
観光客が道を選ぶ際に、人通りの多い道を選ぶことでその街の魅力をより知ることができると思います。
2. 散歩
観光客や住民が穴場スポットを見つける際、あえて人通りの少ないところを選ぶことで、新たな穴場スポットを探ることができます。
3. 防犯
人通りの多い道を通学路や通勤路に選ぶことで誘拐や痴漢などの被害にあう可能性が減少します。
4. ビジネス
大通り以外で人通りの多い場所を見つけて、集客に有利な土地を見つけることもできると思います。



アプリケーション —application—



本アプリケーションのメイン画面となるAR画面です。

交通量の数値は1週間当たりの交通量を表しています。交通量調査は1日の交通量が記録されているためそこから算出します。

ピンク色の線が現在通っている線で、画面の表示では、44,224人が1週間当たりに通っていることとなります。ピンク色の線から分岐している青色の線は10,521人が通っているという表示になります。

道に引かれた線の色と同じ色で表示された数字がその道の週当たりの交通量になります。

基本的に数字と色だけの情報量のため、シンプルで使いやすくなっています。使用する4色は色覚特性を持った人でも判別しやすい4色を使用しています。



メインのAR画面（左図）で「現在地を表示ボタンをクリック」「画面下の表示を上 swipe」でマップ画面に移動できます。

GoogleMapで現在地を確認できます。現在地の近くにある名所を調べたり、行き先を選ぶ上で参考になります。検索機能を使用して目的地を探すことも可能です。

マップ機能は独自のマップを利用せずに使い慣れたGoogleMapを導入した方が利用者が迷うことなく使えると思います。

また、GoogleMapには現在地共有機能や経路検索機能他、多数の便利な機能があるため、そちらも合わせて利用できます。

※Googleマップはロゴを明記することで資料等で利用可能です。

発展 —future—

今回は交通量調査のオープンデータを利用するという内容でしたが、交通量調査のデータは3～5年毎に更新されるため、データに最大5年近い誤差が生じます。

新しい飲食店の登場や道路の工事によって交通量は変化していくため、5年近く前の交通量データは参考にならない可能性が高いです。そこで、データの取得方法として、アプリケーション利用者の移動経路から交通量データを取得する方法や、既存の地図アプリケーションと提携して、アプリケーション利用者の移動経路から交通量データを取得する方法を取り入れることで、よりリアルタイムな交通量データを蓄積できます。

リアルタイム性のある交通量データを利用することで、新しい店舗や観光スポットへの誘導を行えたり、長期工事により封鎖された道路へ利用者が誤って進んでしまうことを防止できます。

東京オリンピックが行われる2020年には海外からの観光客も多くみえると思います。ただ観光名所を回るだけでなく、その街の人通りの多い場所を回ること、各地の魅力に気づけてもらうこともできると思います。また、近年多くみられる児童を狙った事件や痴漢等を防ぐために、できるだけ人通りの多い道を選ぶことにも役立てることができるアプリケーションだと思います。

様々な人々の生活をより快適にできるアプリケーションを目指したいです。



※本資料にて使用している写真は著作権フリーの画像になります。
※ロゴやUI（一部除く）は本資料用に制作したオリジナルになります。
※イメージに記載されている住所は写真と関連のない住所です。